

## 平成 20 年度第 4 回建築学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

I. 日 時：平成 20 年 10 月 27 日（月）13：30～15：30

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

III. 出席者：若井委員長、真下委員、関口委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 議事概要

#### 1. 建築学教育における学士力について

事務局より「学系分野（建築学）の学士力について」の前回委員会原案(配布資料④)に関するサイバーFD 研究員からのアンケート結果について説明があった。

平均的な回収率（27/334 通）が得られたとして、事務局がそのコメントを配布資料⑤に纏めたものをもとに、委員会として検討を行った。

委員長より設問の順にアンケートの回答内容を確認しながら検討を進めた。

#### 2. 検討内容

- ・ 設問は 3 項目で、全体を通して異論はないようである。
- ・ 設問①の“学術・技術・芸術”については 12 名の方から意見が寄せられ、順序を入れ替えるべきとか、“芸術”は外すべき(学士力の範囲では学術、技術にとどめるべき)等の意見が見られた。
- ・ 設問②においては、7 名から意見が寄せられ“社会基盤”や“創生”等のキーワードに対する解釈や表現に対するコメントが見られた。さらに各設問に対する括弧内の説明文について、“社会基盤の創生と構築”や“安全”に“プレゼンテーション能力”がどう必要なのか、結びつけ方に無理がないかなどの指摘の他、“継承”という視点が必要ではないかという具体的な意見があった。
- ・ 設問③については 5 名から意見が寄せられ、マネジメントを付け加えるという意見の他、説明文における表現に関して意見が寄せられた。
- ・ その他の意見
  - ・ 社会基盤の継承と創生および構築は並べすぎか
  - ・ 2 項目には創生を控え、継承の文言を加えてみる
  - ・ 2 項目に“技法”をまたは“建築の技法”を付け加えてみてはどうか。
  - ・ “学術、技術、芸術”に対して“学術、技術および芸術”として重みを考慮する
  - ・ 地球環境は大きすぎる。
  - ・ 倫理規範についてはほかに表現できないか。
  - ・ 基礎的能力だけでは建築はできない。→ 問題解決力・創造的思考力等別項を立ててみてはどうか。

- ・基本事項として、“生命の安全”、“公共の福祉”を組み込む必要があるのではない  
か。
- ・建築に関する種々の技法は項目の選択が難しいので説明文の中で記述する。

### 3. 意見の集約

- ・種々の意見を総括し、
  1. は専門的基礎事項の修得
  2. は幅広い建築の技法を身につける事
  3. では生命の安全・公共福祉に目を向け
  4. は総合的(包括的)な応用力を身につける

の骨子をもとに 4 項目にまとめた。なお、各項目は単純明快な文とし、必要に応じて説明文を添えることとした。最終的にまとめられた文を以下に示す。

#### 学系分野（建築学）の学士力について

1. **建築に関する学術、技術および芸術の包括的な専門知識を修得できる。**  
(建築に関して必要な工学基礎知識の修得から芸術的価値の素養までの幅広い学問体系を包括的に修得すること)
2. **生活環境の継承および構築に必要な建築の技法を身につけることができる。**  
(建築に関する設計・計画、歴史意匠、環境工学、設備、構造力学、一般構造、材料、生産などに求められる幅広い専門技法を修得すること)
3. **生命の安全、財産の保護、公共の福祉の視点から、建築を考えることができる。**
4. **建築に関する問題解決力や創造的思考力の基礎を身に付けることができる。**

以 上

#### 4. 今後の活動について

- ・上記の案を他の委員に確認してもらい、その後委員長にフィードバックして最終的な案としたい。

#### 5. 次回の予定

次回委員会開催日： 年度内にあと 1 回開催予定

平成 21 年度に検討予定の詳細な学士力について目標設定を行う。